

2022年度「自己評価結果報告書」

当園ではこの度、2022年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

カトリック精神に基づき、子供たちに暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に合わせた保育を行いたいと考えています。常に家庭との連絡を密にしながら、日々の保育、行事を通して、神さまの存在や、命の大切さを知らせ、自立心を養うよう保育を行っています。

正しい躰を行い、美しい日本語を耳にすることにより、ご挨拶、感謝、ゆるすことばが身につくよう心がけています。

II. 今年度の重点目標

- 指導計画
- 幼児の見取りと理解
- カトリック園として
- 健康・安全への配慮
- 教員としての資質・良識

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	
1	指導計画	<ul style="list-style-type: none"> 当幼稚園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するのか、この園の保育でどんなことが身に付くのか 年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。 今年度も続くと思われるコロナ禍で、新しい生活様式に合わせたより良い保育を行える計画を立てる。 感染に関しては教員間、保護者間でも考えが違つので、よく話し合い、行事など互いに納得できる計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当幼稚園の保育で重点を置くこと、育ってほしい姿など、各学年の教員間で確認しあいながら保育ができた。全学年を通しての教育理念を確認するためにも、引き続き年度初めに園長、職員で話し合いを行う。 コロナ禍の保育については、感染状況や社会の変化に合わせ、教員間でよく話し合い、保護者の思いも取り入れつつ、新しい生活様式に合わせた保育を行った。感染対策を万全にしつつ前年度できなかった行事を行うことができた。
2	幼児の見取りと理解	<ul style="list-style-type: none"> 一人の幼児をじっくり見ながら、周囲の状況にも気を配ることが出来る。 個々の幼児の発達の様子や課題について見通しを持って理解する。 全教員が在園する全ての園児についてある程度理解しているよう様々な工夫をする。 気になる子どもについては、家庭での様子、保護者の思いなどを詳しく聞き取る機会を設け、幼稚園との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ学年担当の教員間で子どもの性格や特徴、日々の様子や気になった点を共有し、対応を考えることができています。 職員全体の会議で、受け持ちの学年以外の子ども様子を報告しあう機会があり、在園する全ての園児についてある程度の理解ができています。 気になる子どもについては、保護者に聞き取りを行うことがある程度はできているが、家庭での様子などももう少し聞き取る時間が設けられると良い。保育時間との兼ね合いが難しい。
3	健康・安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き園内の清掃、消毒、子どもの健康管理と共に教職員自身の健康管理にも注意を払う。 大きな地震、火災が起きた場合の訓練、事前の対策を徹底する。 園内遊具の定期点検を徹底する。遊具の修繕の必要性などの基準を決めておく。 怪我や事故に気をつけ、万一起きてしまった場合は園長、教職員間で情報を共有する。また、振り返りを行い次の事故防止に役立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍3年目となるが、日々の清掃や消毒、職員や子どもの健康管理に注意を払い保育を行った。子どもの体調変化については小さなことでも保護者への報告を心がけた。怪我や嘔吐などの対処法を徹底したい。 園内遊具の定期点検を行い、安全への配慮をするとともに、子どもたちには怪我や事故を防止するために危険箇所を伝えたり、遊び方で注意する点を知らせることができた。 怪我、小さな事故は残念ながら起きてしまうこともあったが、保護者への連絡、応急処置、園長や職員への情報共有、振り返りをスムーズに行うことができた。 地震や不審者侵入などに対する訓練や事前の対策はもう少し頻繁に行いたい。

2022年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会駒場幼稚園

評価項目		取組み内容	
4	教員としての 資質・良識 教員の連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年研修の機会が減っているが、教員としてより高度な専門知識、技術を身に付けるよう努力する。 すべての教職員が気持ちよく仕事ができる職場環境を目指す。 教職員間では相手の気持ちを考え、適切で暖かい言葉かけができるよう務める。 教職員全体で一つのチームであることを意識し、他学年の保育や仕事の進捗状況などに気を配る。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は研修に積極的に参加する機会が増え、それぞれの保育に活かすことができているが、他の職員にも研修内容を共有できると良い。 各学年の子どもたちについての情報はある程度共有できているが、それぞれの学年の保育の工夫、仕事の進捗状況などが把握しきれていなかったように思う。 職員間で相手の気持ちを考え、暖かい言葉かけができるよう心がけた。様々な年次の職員がいることを考え、引き続き、個々の気持ちや悩んでいることなどに耳を傾けたい。
5	カトリック園として	<ul style="list-style-type: none"> カトリック幼稚園の教員であることを自覚し、それぞれがキリストの教えを学びそれを幼児にどのように伝えるか指導法を全体で研究する。 枝光会の意味することを再認識し、創設当時のシスターがたの思いが園全体に伝わるようにする。 カトリック教会との連携を図り、キリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にす。 身近な事象（自然事象・社会的事象）や動植物とのふれあいに親しむとともに、生命の大切さや畏敬の念を感じ取れるよう努める。 子どもたちの視点を少し広げ、困難に遭う人々の存在を認識できるようにする。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の祈り、カトリックの行事を通して子どもたちに基本的な教えを伝えることができている。 園長から子どもへの話を教員が振り返り、子どもに話すことやカトリックの絵本を読むことなどで子どもたちの理解を深めている。 カトリックに関して日々の学び、研修などを増やし教員の理解を深めたい。 身近で起こる自然現象に気付くことができるよう促し、動植物世のふれあいを大切にしている。 今年度は子どもたちがSDG'sについて学ぶ中から、世界情勢に目を向け、困難に遭う子どもたちの存在を知り子どもたちで話し合うことができた。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	保育計画	<ul style="list-style-type: none"> 当幼稚園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するか、この園の保育でどんなことが身に付くのか、年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。 コロナ禍以降の新しい生活様式に合わせたより良い保育を行える計画を立てる。 感染に関しては教職員間、保護者間でも考えが違っているので、よく話し合い、行事など互いに納得できる計画を立てる。 保護者が何を求めているかを理解し、そのニーズと従来の保育を上手に合わせた計画を立てていく。
2	教員間の協力 ・連携	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの取り組みが、他の学年の教員にもわかるよう知らせる機会を定期的に持ち、全体の保育にも生かせるようにする。 教職員全体で一つのチームであることを意識し、学年単位でなく、お互いの学年を助け合う雰囲気づくりに努める。 子どもへの注意の仕方、配慮の必要な子どもに対する接し方等、よく話し合い共通理解を持つ。 より良い保育を目指し、教員一人ひとりが自ら考え、活発に意見を交換することで保育の質を高める。
3	情報の発信・受信	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会においてクラスの子どもの様子、園としての考え、保育のポイントなどを正確に伝え、保育について、家庭の在り方について共通理解を得よう務める。 定期的に保育参観を行い、日常の保育の様子を知らせる。場合によっては個別に保育や子供の様子を見てもらい、保護者と個別懇談が行えるようにしておく。 様々なツールを用いて、園外の方にも幼稚園のことを知ってもらえるよう務める。
4	防災・防犯への 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年感染防止対策に重きを置く傾向となったが、来年度は防災・防犯の訓練の回数を増やし、様々な場面に適応できるようにする。 様々な条件を設定して、防災・防犯訓練を行い、子どもたちともよく話し合う。 訓練の結果を職員間で話し合い、次の訓練に活かしていく。 訓練の結果をマニュアルの改善に活かしていく。
5	カトリック園として	<ul style="list-style-type: none"> カトリック幼稚園の教員であることを自覚し、それぞれがキリストの教えを学びそれを幼児にどのように伝えるか、指導法を全体で研究する。 カトリック教会との連携を図り、キリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にす。 身近な事象（自然事象・社会的事象）や動植物とのふれあいに親しむとともに、生命の大切さや畏敬の念を感じ取れるよう努める。 カトリックの教えが、単に知識や文化の伝道にならず、精神の部分も大切にしてい

評価項目	取組み内容	
------	-------	--

V. 学校関係者の評価

園の先生方はいつも温かく園児および保護者を見守ってくださり、園児一人ひとりが美しいお心を持てるよう大変丁寧に関わってくださっていると日々感じております。

学年の担当の先生でなくても、どの先生も、全ての園児のことをよくわかってくださっていると思います。それは先生方が十分にコミュニケーションを取り園児の様子を共有なさっているからだと思います。また保護者のこともよく見てくださっていて、気にかけてくださっていることを感じます。

今年度は、前年度実施できなかった行事も開催され、異学年の交流の時間も増えたように感じます。子供たちは行事を通してやり遂げることを学び、その自信が成長に繋がっています。

園庭で伸び伸びと思いきり外遊びを楽しむ時間、そしてお教室の中で心を整え静かにお祈りする時間、このどちらもを大切に、メリハリのある園生活を送ることのできる子どもに成長しています。2学期からは神父様のお話を聞く機会を再開してくださり、保護者にとってもカトリックの教えを改めて学ぶ機会となり、親子共々育てていただいていることに心から感謝しております。

学校評価委員 高崎真知子

学校評価委員 井岡佑華

学校評価委員 小原舞子

学校評価委員 森田真里子